

# Promoting Autonomous Learning through Materials Design: The Successful Example in Kanji and Vocabulary Learning

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Fujita, Satoko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00054021">https://doi.org/10.24517/00054021</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 実践報告

# やる気にならない学習者の学習意欲を高める自律学習 －上級漢字・語彙クラスで基礎的知識を習得する方法と教材作成－

藤田佐和子<sup>注1</sup>

## 要 旨

上級日本語学習者でも、基礎的な漢字・語彙が読めないこともあるが、学習者としては漢字を「知っている」つもりなので、学習意欲を持ちにくい。

そこで、自律学習を行うために基礎的な知識が網羅された教材「覚えましょう」を開発した。学習者にはクラス冒頭で学習の動機付けを行うが、使うかどうかも含めて学習の一切を学習者に任せ、授業では発展的な学びに焦点をあて、基礎的な知識については習得状況を確認できるテストのみを行った。

その結果、学習者の意欲は高まり、効果的な学習が可能となった。学習の無駄を省くことができ、基礎的な知識に向上が見られた。また、この方法は学習者から高い評価を得た。

【キーワード】自律学習，漢字，語彙，基礎，上級

## I. 実践の背景

### 1. クラスと学習漢字

金沢大学では1998年に6レベルの漢字・語彙クラス(「漢字A」～「漢字F」)を開設し、2019年現在はそれが7レベルのクラス(「漢字・語彙1」～「漢字・語彙7」)になっている。

筆者は漢字・語彙クラス開設当初から、最上級レベルのクラス(旧「漢字F」、現在の「漢字・語彙7」)を担当している。漢字・語彙クラス開設当時の留学生センター(現金沢大学国際機構)の方針は、旧日本語能力試験出題基準の2級までの漢字のすべて(1,023字)を金沢大学の漢字・語彙クラスで学ぶというものであった。そのため、「漢字F」の学習漢字は、2級までの漢字1,023字から下のクラスで学習した漢字を除いた168

字<sup>注2</sup>となった。

「漢字F」の学習者はFレベルの留学生が中心であり、Fレベルは新聞などの生教材を読むことが期待されるレベルであった。生教材を読むためには2,000字程度の漢字の習得が必要であると考えられる。

開設当時の「漢字F」は、既に2,000字を知っているであろう学習者たちに、基礎的な1,023字までの漢字からの168字を学習させるというクラスであった。(2019年現在、学習漢字は変更になり、「漢字・語彙6」、「漢字・語彙7」クラスでは1級漢字100字も学ぶことになっている。)

## 2. クラスの問題点

2,000字を知っているであろう学習者に1,000字レベルの漢字を教えるわけであるから、学習者からすれば「そんな漢字は知っている」ということになる。知っていると思っているので、勉強する意欲がわからない。しかしながら実際は、本人たちは「知っている」と思っている漢字であっても基礎的な知識が欠けていることも多かった。この状態はクラス開設当初から現在まで続いている。

授業開始前のオリエンテーションの時間に学習対象の漢字語彙がどのくらい読めるか調べた<sup>注3</sup>ところ、正答率は31.8%しかなかった。例えば「武具を身につけた勇ましい姿で写真をとる」など、読みはやや難しいものを選んではあるが、基礎的な漢字、語彙の読みを問うものであり、生教材を読むレベルであれば当然読めなくてはならないものである<sup>注4</sup>。このように、学習者は「知っている」つもりではあるが、実際には基礎的な知識で知らないことがあると考えられた。また、次のような問題もあった。

- ・日本語能力が高い学習者のクラスではあるが、個々のレベルには差がある。基礎的な知識に問題がない学習者もいるが、かなり欠けている学習者もいる。
- ・日本人であれば各学年の学習漢字は全国一律に決まっているが、外国人にはそのようなものはないので、学習者によって欠けている知識が異なっており、どこが欠けているか推測することが難しい。

読みや意味がわからなければ言葉として使うことができないので、基礎的な読みや意味は知っている必要がある。このクラスの学習者の場合、知らない知識もあるが知っている知識も多かった。知っていることを学習したくないのは当然である。基礎的な知識を学習する気になりにくいということが、クラスの大きな問題点であった。

## II. 学習意欲を高める自律学習

「自律学習」とは、学習者自身が自己の学習に主体的に関わり学習を孤立化せず、教授者や教材や教育機関などといったリソースを利用して行う学習をいう<sup>注5</sup>。このクラスの場合、基礎的な知識を一斉授業で学ぼうとすると、知っている知識が多いので、時間と労力の無駄が多くなり、学習意欲を削ぐことにもなりかねないと考えられた。また、梅田(2005)は「自分に適した方法は自分自身をもっともよく知っており、それを自分で選び、決定することが最善の方法」であると述べているが、学習の工夫を個人に任せるとするのが、母語も異なり、学習背景も異なるこのクラスでは特に理にかなったやり方であると考えられた。

大学の最高レベルのクラスであったため、筆者は基礎的な知識の先にある、もっと深い、発展的な授業をしたいと考えた。考えることにこだわったアクティブラーニングや協働学習など、ひとりではできない、仲間と助け合って学ぶ授業をしたいと思い、学習者もそれを望んだ。教材が全くない状態で始まったクラスであったので、授業は学習者と話し合い、一緒に考え、学習者の希望を取り入れて行った。その結果、発展的な授業を行なうために、基礎的知識については授業前に各自が確認し、もしできていないところがあれば、そこは各自で学習することになった。ただ学習者に任せてしまうだけでは、十分な効果は得られないと考え、自律学習ができる教材を開発し、それを使って効果的に学習ができる環境を整えた。

以下、作成した教材「覚えましょう」と効果的に自律学習を行うための方法について述べる。

### 1. 自律学習教材「覚えましょう」<sup>注6</sup>

「覚えましょう」は漢字の読み、語彙、意味についての基礎的な知識を、抜けることのないよう、すべて入れて作り込んだ教材である。まず実際の「覚えましょう」の一部(図1)を提示し、それから各構成要素について説明する。

▶覚えましょう

53

息

一部首一心  
一画数一10画

音読み ソク 訓読み いき 【読み】

---

息子<sup>3</sup> 息<sup>2</sup> 消息<sup>1</sup> 利息<sup>1</sup> スル 休息<sup>2</sup> 溜息(ため息、溜め息)<sup>2</sup>  
むすこ いき しょうそく りそく きゅうそく ためいき いき た いき

一息<sup>1</sup> スル 息抜き 息苦しい スル 息切れ スル 生息 スル 窒息<sup>1</sup>  
ひといき いきぬき いきくる いきぎ せいそく ちっそく

子息<sup>1</sup> 寝息 スル 終息 息の根 愚息 令息 【語彙】  
しそく ねいき しゅうそく いきね ぐそく れいそく

---

①【いき・呼吸】

走ったので、息が苦しい。

②【生きる】

ニホンザルの生息地。

③【子・むすこ】

うちの息子は12歳だ。

④【やすむ】

休息を取る。

【意味】

図1 「覚えましょう」

1)【読み】

改定常用漢字表の読み方のすべてを記載した。

2)【語彙】

次の2つを基礎的な語彙と考え、そのすべてを【語彙】の部分に記載した。

- ① 旧日本語能力試験出題基準にある1級～4級の語彙 右肩に数字で級を記載
- ② 学習指標値5以上の語彙 徳弘(2009)のデータを使用 太字で記載

語彙はすべて、ひとりで勉強できるように、下付きルビとした。

また、【語彙】部分にあるすべての語彙(①、②及び授業で扱う語彙)は、学習指標値の高い順に並べた。

徳弘(2009)では、約36,000語について頻度値(0～5の数字で表す。朝日新聞14年分の単語の頻度)、親密度値<sup>注7</sup>(0～5で表す。その単語のなじみの度合い)を定め、それらの値の和(0～10)を学習指標値としている。

例えば漢字「息」の語彙は約36,000語の中に44語あるが、「息子」「息」は頻度値5+親密度値5=学習指標値10であり、これを「息」の【語彙】の最初に入れた。次に出てくる

「消息」「利息」は  $4 + 4 =$  学習指標値 8, 次の「休息」から「生息」までの 7 語は学習指標値 6, 次の「窒息」が学習指標値 5 である(図 1)。「覚えましょう」では学習指標値 5 以上を重要語彙とし、太字で示すこととした。

太字でないものは、旧日本語能力試験出題基準語彙のうち学習指標値 4 以下のもの、授業で発展的な学習をするために使う語彙で学習指標値 4 以下のものである。「子息」は学習指標値 3 であるので太字ではないが、1 級語彙である。太字でない部分も学習指標値の高い順に並べた。

学習指標値 5 以上の語彙、旧日本語能力試験出題基準にある 1 級～4 級の語彙のすべてを記載したので、基礎的な語彙はすべて含まれており、また重要な順に並んでいるので、学習者が各自で使い方を工夫することもできると考えた。

### 3)【意味】

小学生向けの漢字辞典<sup>注8</sup> 3 冊を調べ、3 冊の意味の項目で共通しているものをすべて記載した。漢字「息」の場合は、【いき・呼吸】【生きる】【子・むすこ】【やすむ】の 4 項目である。項目はなるべく平易な日本語で表現すること、不自然でない範囲でひらがなにすることを心がけた。

項目ごとに一つずつ例文を付け、例文はなるべくわかりやすい、簡単な文とした。また、学習者の負担を減らすために漢字には下付きルビを付けた。この形であれば、学習者は眺める(ルビを隠しながら読む)だけという使い方が可能になる。

また、学習者になるべく辞書を引かずに済むように配慮をした。例えば、例文「ニホンザルの **生息地**。」を読んだ時に「生息地」の意味を知らなかったとしても、すぐ上に【生きる】とあるので、辞書を調べなくても「生息地」はニホンザルが生きている場所であることがわかるであろう。【意味】の作成は常に「学習者がひとりでも楽に使えるように」を念頭に置いて行った。

## 2. 効果的に自律学習を行うための方法

各自の学習を単なる自宅学習ではなく、効果的な自律学習にするためには、それなりの仕組みや工夫が必要だと考えた。渡辺(2012)は「教師の介入が少なければ、学習者個人が、自分の学習について深く考え、計画や評価を行う機会を得ることができ、自然に自律性が育つ」と述べている。学習の材料は提示するが、それを使う/使わないも含めて、方法、時間など学習のすべてを学習者に委ねれば、学習者のやる気を引き出せるのではないかと考え、そのための効果的な方法を具体的に考えた。

「覚えましょう」は基礎的な読み、語彙、意味を網羅しているので、学習者は自分に



## 2)「知っている」漢字が読めるか、確かめてもらう

授業で勉強することになっている漢字を実際に読ませたところ<sup>注9</sup>、学習者は「知っている」と思っていた漢字でも読めないことに気が付いた。読めなければ言葉は使えない。言葉の使い分けや意味は、読むことよりもっと難しいことである。授業では読みだけではなく、使い分けや意味、もっと深い発展的な学習をすることを伝え、3)に進んだ。

1), 2)を行うようになってからは、「自分には必要ないから、このクラスを受講したくない」という学習者はいなくなった。「知っている」漢字でも、知らないこと、学ぶべきことはたくさんあると学習者自身が気付くようになったからである。1), 2)を行うことによって、基礎的な知識で欠けているところがあると自覚してもらえようになったので、3)を効果的に行うことが可能となった。

## 3)クラスでの方法について説明し、自分の学習のやり方を考えてもらう

授業では発展的な学びをしたいが、基礎的な知識は必要である。基礎ができていなければ、授業も楽しめないと説明し、クラスでの方法を「覚えましょう」を見ながら説明し、自分はどうするのかを各自に考えてもらった。以下、クラスでの手順を説明する。

### ① 基礎的な知識は知っていることが多いことを確認

学習者に「覚えましょう」の【意味】の例文を見てもらい、紙やノートなどで例文の下のルビを隠して読んでもらった。

例：「走ったので、息が苦しい。」(図1参照)

読めて文の意味がわかればそれで良いと伝え、「走ったので、息が苦しい」という問題を授業でしたいかどうか尋ねると、「こんな簡単なものを授業でわざわざする必要はない」といった答えが返ってきた。基礎的なことで既にできていることが多いということを確認し、考えさせ、それは授業でしなくていいと納得してもらって、次に進んだ。

### ② 基礎的な知識の習得は自宅で、自律学習

知っている知識を授業で勉強することは時間の無駄になるので、基礎的な知識<sup>注10</sup>を知っているかどうかは各自で確認し、知らないことがあったら、そこは各自で勉強することとした。

各自の学びを単なる自宅学習に留まらない自律学習に高めてもらうために、「覚え

ましょう」については詳しく説明し、自分はどう学習するか、どのようにして基礎的な知識を習得するかを考えてもらった。

### ③ 習得状況を各自が確認できるように、テストに出題することを告知

学習者は各自で学ぶことになるが、習得できているかどうか確認できる方法があったほうが学習は進めやすい。國澤・梶原(2017)は、「学習クイズが漢字学習の動機付け強化や学習方法の意識化に肯定的な影響を与える」と述べているが、テストへの出題は学習の大きな動機付けにもなる。また、学習の結果、自分ができるようになったと確認することは、メタ認知ストラテジーである「自分の学習をきちんと評価する」(Rebecca L. Oxford 1994) ことにも役立ち、自分の学習が正しく進んでいると自信を持ち、安心して学習を継続することにもつながる。

そこで、毎時間の小テスト及び定期テストを用いて、習得状況の一部を各自が確認できるようにした。

テストへの出題はあくまでも学習者が自分の基礎的知識がどのくらいできているかを知るための手段であり、これにより教師が学習者を評価したいわけではない。そこで、学習者にはオリエンテーション時に以下を明言し、学習者の自由度をなるべく損なわないよう配慮した。

- ・テストに出るのは、「覚えましょう」の【意味】の例文の漢字(網掛部分)の読みだけとする。出題は例文と全く同じものとし、【語彙】からは出題しない。
- ・定期テストには50～60問を出題するが、点数は定期テスト全体の10%(100点のうち10点分)とする。これは、その部分の得点がなくても単位を落とさない程度の配点である。

基礎的な知識がもともとある学習者の場合、1課分(17～18字)の「覚えましょう」は10分余りで認識できるので、【意味】の例文を読むだけであれば、負担は少ないと考えられた。【意味】例文の漢字の読みしかテストに出さないのは、学習者の負担はなるべく少なくし、自分ができているかどうかの確認ができる形にしたいと考えたからである。

テストで習得状況を確認できるのは【意味】例文の漢字の読みだけであるが、例文の漢字が読めるようになることが目的ではない。目的は、自分に必要なものは何かを自分で判断し、自分なりの手段でそれを身につけることである。【語彙】を増やそうとする学習者もいるであろう。それも語彙の読みの確認で終わるのか、意味まで調べて覚

えようとするのか。あるいは他の語との関連まで考えようとするのか。学んだ成果は各人で異なった形になり、その到達点も異なるはずである。【意味】例文の漢字の読みができるというのは、低いハードルを示して跳べるかどうか、自分でも確認できる手段を与えたに過ぎない。

習得状況が点数で示されるのはほんの一部(【意味】例文の漢字の読みだけ)ではあるが、点数という目に見える形ではっきりと示される。学習者は毎時間の小テストのたびに自分の力を確認することになるので、必要があると思えば、自分で考えて、学習を進めていくことになった。

### Ⅲ. 自律学習の成果

自律学習を行った結果、学習者がどのように学び、どのような成果が得られたかについて述べる。最初に、テストには出題しないとした「覚えましょう」の【語彙】から考察し、次に出題を告知した【意味】例文の漢字の読みから考察する。

#### 1. 「覚えましょう」の【語彙】

【語彙】は学ぶ価値があるものであることをクラス開始前のオリエンテーション時に詳しく説明し、学習の動機付けはしているが、テストには出題しないとした部分である。

学習者がどのように学んだかを見るために、クラス終了後に学習者の「覚えましょう」を確認したところ、テストには出題しないとした【語彙】部分にも多くの書き込みが見られた(図4, 図5)。

学習者の「覚えましょう」を見ると、各人各様の使い方をしており、例えばベトナム人学習者の「覚えましょう」(図5)には、越南語の漢字の音の表記の書き込みがある。ベトナム人学習者によれば、このような書き込みは記憶を大きく助けるとのことであった。

学習者は自分に適したやり方で、自分の思い通りに「覚えましょう」を使っていることがわかった。

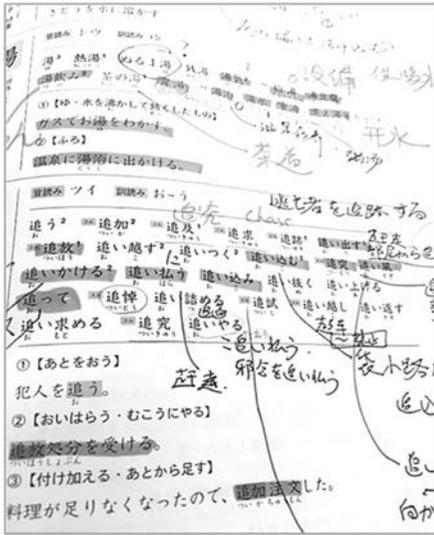


図4 「覚えましょう」中国, 女性 (2016年秋)

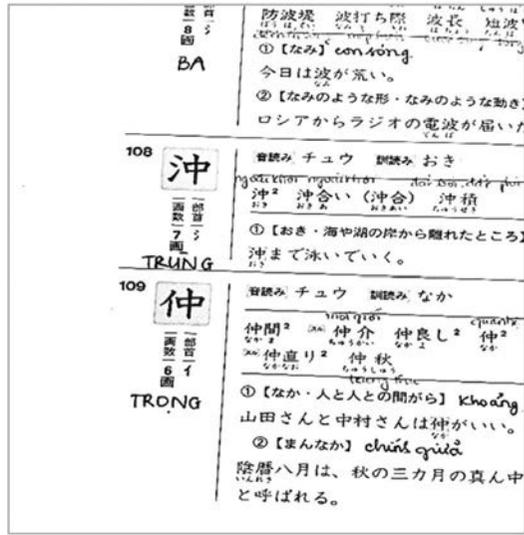


図5 「覚えましょう」ベトナム, 女性 (2017年春)

【語彙】部分の漢字の読みについて、クラス開始前のオリエンテーションの時間に語彙の読み問題(8問)を行って調べたところ、正答率は53.9%であった。クラス終了後に同じ8問で調べたところ、正答率は66.1%になり、12.2%の伸びが見られた<sup>注11</sup>。前後の得点をWilcoxon符号付順位和検定により比較した結果、有意差が認められた( $p < 0.05$ )。

この8問は授業中に教えない語彙である。学習者は自分で学び、この結果になったものと考えられる。



図6 【語彙】部分の漢字の読み(8問)の正答率(%)

また、この8問の点数の推移について、一人ひとりの変化を細かく見たものが表1である。クラス開始前よりも終了後に点数が増えた学習者を網掛で示し、開始前の点数が低い者から順に並べてある。

学習者1～学習者14は開始前の点数が50点以下(80点満点)であったが、学習者1を除いて全員が得点を伸ばした。学習者1はクラス開始前のオリエンテーションに来なかった学習者であり、学習の動機付けがうまくなされなかったものと思われる。

基礎的な知識が欠けていたと思われる学習者(開始前の点数が50点以下の者)は大幅に得点を伸ばし、元々基礎的な知識があったと思われる学習者についても得点の向上が見られる者が多かった。開始前の点数が60点以上であった学習者で、点数が伸びた学習者は14人中7人(50.0%)であった。

テストに出題されないと知っていても、自分で必要だと思って勉強した学習者が多かったことが、一人ひとりの得点の伸びからも確認でき、各自の自律学習の効果が数字で見える結果となった。

表1 【語彙】部分の漢字の読み(8問/80点満点)の点数

	開始前	終了後
学習者1	30	30
学習者2	30	50
学習者3	30	60
学習者4	30	60
学習者5	40	50
学習者6	40	50
学習者7	40	60
学習者8	40	60
学習者9	40	70
学習者10	40	70
学習者11	40	70
学習者12	50	60
学習者13	50	70
学習者14	50	80

学習者15	60	60
学習者16	60	60
学習者17	60	70
学習者18	60	70
学習者19	60	70
学習者20	70	60
学習者21	70	70
学習者22	70	80
学習者23	70	80
学習者24	70	80
学習者25	70	80
学習者26	80	70
学習者27	80	80
学習者28	80	80

(2017年秋10名、2018年春18名。計28名)

## 2. 「覚えましょう」【意味】例文の漢字の読み

テストへの出題を告知した【意味】例文の漢字の読みについて、クラス開始前に行った読み問題10問を、クラス終了後にも出題し、正答率の変化を調べた<sup>注11</sup>。

クラス開始前の【意味】例文の漢字(網掛部分)の読みの正答率は31.8%(10問)であった。各自に任せて授業では全く扱わなかったにもかかわらず、クラス終了後の正答率は63.6%となり、明らかな伸びが確認できた。前後の得点をWilcoxon符号付順位和検定を用いて検証した結果、有意差が認められた( $p < 0.05$ )。

\*この10問は、「覚えましょう」例文の中でも難しい読み方のものを出題している。

定期考査で「覚えましょう」の例文の中から問題をランダムに選んで出題したところ、中間考査(55問を出題)での例文の漢字の読みの正答率は92.4%(2017年秋), 88.0%(2018年春)であった。期末考査(57問を出題)では88.1%(2017年秋), 86.9%(2018年春)であった。いずれも非常に高い正答率であり、習得度は高いと考えられる。



図7 【意味】例文の漢字の読み(10問)の正答率(%)

### 3. アンケートからわかること

1,2より、学習者は自律的に学び、成果が得られていることがわかった。しかし、この方法の優れている点は学習した者が伸びるということだけではない。今回の方法を用いれば、学習の無駄を省くことも可能になると筆者は考えている。

授業終了後アンケートで「覚えましょう」はどのように使いましたか」と問いかけたところ、「ゴメン、使いませんでした」と答えた学習者がいた(2016年秋, 中国, 男性)。N1取得済みで、専門は日本文学という学習者であった。この学習者は、期末考査の「覚えましょう」例文の中からランダムに選んで出題している読み問題は57問中51問を正解(正解率89.5%), 「漢字・語彙7」クラスでの成績はS(90点以上)であった。習得度は高いと考えられる。

「覚えましょう」を使わない学習者は、確認はとっていないが、毎学期いるのではないかと感じている。このような習得度の高い学習者の場合、できていることは勉強しないという選択もできるこのやり方は、学習者にとって最も良い方法であろう。この方法を用いれば、知っていることを学習せずに済み、授業時間には基礎的知識を習得することよりもっと有意義な、別の学びをすることができる。日本語能力の高い学習者が多いクラスの場合、これは非常に有効な方法であると考えられる。

## IV. 学習者は今回の自律学習の方法をどう思ったか

自律学習を効果的に行うために用いた2つの方法について、すべての授業が終了した後学習者にアンケートをとった。以下、アンケートの結果を説明し、考察する。

### 1. 「覚えましょう」を自宅学習にしたことについて

2018年春学期の16名に、「覚えましょう」は自宅学習にして、授業で使いませんでした。これについてどう思いますか」と尋ねたところ、「とても良い」が25%、「良い」が31.3%、「ふつう」が31.3%、「良くない」が12.5%で、「とても良くない」と答えた学習者はいなかった。

以下、学習者の自由記述より抜粋し、考察する。

学習者A：15分ぐらいで覚えます。いいと思います。自宅でも大丈夫です。（「良い」）  
学習者B：「覚えましょう」を自宅で勉強するのは問題ない。もし授業中やるなら時間はもったいない。（「とても良い」）  
学習者C：「覚えましょう」の部分には簡単なことばもあれば、難しいことばもあると思う。簡単なことばが大きい部分を占めているので、わざわざ授業で全部の内容を説明する必要はないと思う。（「ふつう」）  
学習者D：自宅学習にして覚えて、クラスで使わなかったら、忘れやすいからです。（「良くない」）

学習者Aは15分ぐらいで覚えられようとしている。負担とは感じず学習できたことがわかる。

学習者B、学習者Cの記述は、最も多くの学習者が言うことである。授業中は協働学習を楽しみたいので、自分でできること、できていることに授業時間を使うのは無駄であるとする学習者は多い。

学習者D（「良くない」と回答）は非常に積極的に授業に参加し、クラスのムードメーカー的な存在であった。アンケートについて更に聞き取りを行ったところ、授業中みんな勉強したことは覚えやすいが、授業でしなかったことは忘れやすいから書いたとのことであった。授業では記憶に繋げるために、いろいろと趣向を凝らした学びをしている。この発言はむしろ、授業で勉強したことは覚えやすかったと授業を評価していることの裏返しであると筆者は考えている。

「覚えましょう」を自宅学習にしたことについては、概ね良い方法であると評価されていると考えられる<sup>注12</sup>。

## 2)「覚えましょう」をテストに出題したことについて

「とても良い」が25%、「良い」が62.5%で、合わせて87.5%であった。「ふつう」と答えたのは2人だけで、「良くない」「とても良くない」と答えた者はいなかった。テストをすることによって、学習者は自分の力を確かめることができ、自分で考えて学習を進めることができる。学習の動機付けにもなるこのやり方を、学習者も非常に高く評価していると考えられる。

自由記述では、テストに出たから勉強ができて良かったと答える学習者が多く、その結果、できることが増えた(テスト以外にも活用できた)と自己評価する学習者が多かった。

<学習者の自由記述より>

A：もしテストに出なかったら、復習しないかもしれません(笑)

B：テストのため、勉強の動機があるので、よりまじめに漢字語彙を勉強できるから。

C：簡単なことばでも価値がある。自分が自分の語彙力をテストする機会はなかなかないので、小テストを通じてそれを知るようになったら、いいことだと思う。

D：テストに出さないときちんと勉強しようと思う気持ちがありません。たとえ勉強しても覚えようとしないと私は思います。テストがあるから勉強する時間をきちんと予定に入れますが、テストがないと別のこと、別の宿題のほうを優先してしまいそうです。テストのために勉強しますが、そのおかげでほんとうに頭に入って、実際に使えるようになったことも多いです。

## V. 学習者の評価

### 1. 「覚えましょう」の難易度(図8)

「覚えましょう」の難易度について尋ねたところ、「難しい」が31%、「ちょうどよい」が63%、「易しい」が6%であった。

「ちょうどよい」が63%と最も多いが、「難しい」と答えた学習者も31%いた。基礎的な知識はできていると思っていたが、やってみたら、知らないことも多かったということであろう。やって価値があったということであると考えられる。

### 2. 「覚えましょう」の役立ち度(図9)

「覚えましょう」の役立ち度について尋ねたところ、「とても役立つ」が25%、「役立つ」が69%で、「ふつう」と答えたのは1人のみであった。ほぼ全員が「役立つ」「とても役立つ」と答えており、高い評価を得た。

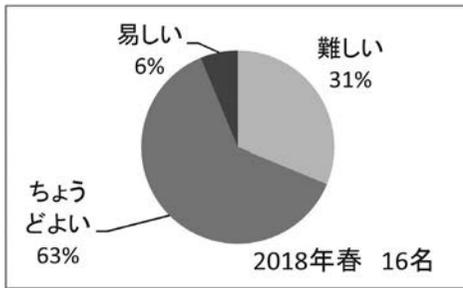


図8 「覚えましょう」の難易度

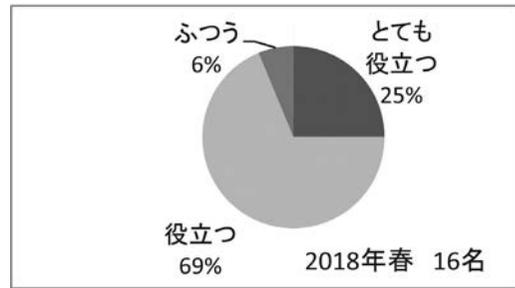


図9 「覚えましょう」の役立ち度

## VI. まとめ

本稿では基礎的知識を自律学習で学ぶための工夫と教材について述べ、自分で学べる教材と環境を整えれば、学習者は自律的に学ぶことができることを示した。この方法は学習者の学習意欲を引き出す効果的な学習方法であることが示された。

筆者のクラスでは、学習者一人ひとりが自分には基礎的知識の学習が必要であるかどうかを考え、自分の好きなやり方で、自分のペースで、自分の意志に基づいて学習をしている。習得状況は小テスト、定期テストで確認することができ、それを踏まえて各自が自分で考えて学習を進めている。クラス終了後のアンケートでは「多くの知らない漢字と語彙を覚えた」「マスターする語彙の量も増えてきました」「ことばの範囲が広くなりました」(2018年春、終了後アンケートより)などの自己評価が見られた。学習者の自由記述からも、学習者が漢字・語彙を増やすために今回の方法が役に立ったと考えていることがわかった。

今回の方法により、「知っている漢字だから勉強したくない」という学習者はいなくなり、自分の足りない部分を自分で見つけて基礎的知識を自分で習得することが可能となった。この方法は、一斉授業よりも効率がよく(無駄な時間を省くことができる)、自分で考える能動的な学びを可能にする。それは時に自分で母語との関連を考えたり、語彙を意味でグルーピングしたりという深い学びにつながることもある。自分で主体的に決めることができるので、自分で学ぶ喜びを感じることもできる。

基礎的な知識よりもっと先にある深い学びをすることが、筆者のクラスの本来目指すところであるが、基礎的知識の習得を授業時間外で行うことによって時間ができたので、授業では考えることにこだわった協働学習を行うことが可能になり、そのためクラスでの学習者の満足度も非常に高いものとなった<sup>注13</sup>。

## VII. 今後の課題

膨大な漢字・語彙をどうやって増やしていくか。これは永遠のテーマのように思われる。今回は基礎的知識を自律学習で学ぶという形で、一つの有効な手段を示したが、語彙については学習者をサポートする方法が他にも多くあるのではないかと考えている。「覚えましょう」の【語彙】の部分には重要語彙が集められているが、知らない語彙を辞書で意味を調べて覚えようとしても、頭にも入りにくいし、記憶にも残りにくい。語彙だけではなく、語彙を使った文、意味のあるまとまった文章で、学習者の自律学習をより一層支援する教材の開発が必要であると考えている。

### 【注】

- 1 金沢大学国際機構
- 2 旧日本語能力試験出題基準の2級までの漢字から、『Basic kanji Book 1』『Basic kanji Book 2』『Intermediate kanji Book 1』(凡人社)の漢字を差し引いた324字のうち、167字が「漢字E」、168字が「漢字F」の学習漢字とされた。
- 3 調査対象は、2017年秋季学期10名、2018年春季学期18名。計28名。
- 4 「勇ましい」は2級語彙、「勇」は2級漢字である。  
 <読み問題10問のうちわけ> 漢字：2級9問、1級1問 / 語彙：2級5問、1級4問、級外1問
- 5 国立国語研究所監修(1998)『日本語教育重要用語1000』バベル・プレス
- 6 開発した教材は2015年に出版。『上級・超級日本語学習者のための 考える漢字・語彙 超級編』
- 7 徳弘は『NTTデータベースシリーズ 日本語の語彙特性』(天野・近藤1999・2000 三省堂)の調査結果を用いて、頻度値、親密度値を定めている。
- 8 『光村漢字学習辞典』(光村教育図書)、『例解学習漢字辞典』(小学館)、『新レインボー小学学習辞典』(学習研究社)
- 9 藤田佐和子(2015)p. 8の読み問題10問
- 10 本稿では基礎的な知識の対象を、意味、読み、書き、語彙とし、書きについては、学習を希望する者に自律学習で学ぶ別の方法を用意している。
- 11 調査対象者詳細  
 2017年秋季学期10名：N1取得9名、1名はオリエンテーション時にいなかったため不明。  
 2018年春季学期18名：N1取得9名、N2取得7名、日本語能力試験を受けたことがない者2名。
- 12 「良くない」と回答したもう一人の学習者は「いいと思う。わからないことは先生が説明してくれるのはいいと思う。」と記述している。学習者に聞き取りをしたところ、「覚えましょう」を自宅学習にして授業で使わなかったことについては「いいと思う」とのこと。わからない言葉は先生が説明してくれたほうがもっとよかったと思い、「良くない」に○をつけたということで、設問に正しく答えていれば「良い」が選ばれたはずの回答であった。
- 13 授業終了後アンケート(2018年春季学期16名)では、記入のなかった1人を除き全員が、授業について「とても良い」(53.3%)「良い」(46.7%)と答えている。

やる気にならない学習者の学習意欲を高める自律学習－上級漢字・語彙クラスで基礎的知識を習得する方法と教材作成－(藤田)

**【参考文献】**

- 梅田康子(2005)「学習者の自律性を重視した日本語教育コースにおける教師の役割－学部留学生に対する自律学習コース展開の可能性を探る－」『言語と文化』No.12 p.67 愛知大学
- 徳弘康代(2009)『日本語学習のためのよく使う順漢字2100』三省堂
- 渡辺陽子(2012)「自律性を育てる漢字クラスの実践報告と教師の役割の考察」『JSL漢字学習研究会誌』第4号 p.44 JSL漢字学習研究会
- 國澤里美・梶原彩子(2017)「中級「漢字・語彙」クラスにおける自律学習の実践－日本語コースデザインの改善を通して－」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』28巻p.150 名古屋学院大学産業科学研究所
- Rebecca L. Oxford (1994)『言語学習ストラテジー 外国語教師が知っておかなければならないこと』p.132 穴戸通庸・伴紀子訳 凡人社
- 藤田佐和子(2015)『上級・超級日本語学習者のための考える漢字・語彙 超級編』ココ出版

# **Promoting Autonomous Learning through Materials Design: The Successful Example in Kanji and Vocabulary Learning**

Satoko Fujita

## **Abstract**

Even the most advanced learners could be troubled with basic Kanji and vocabulary. However, motivation to relearn the basic knowledge is generally lacking, as they think they already know it. This paper presents a case of material and classroom guideline design to motivate autonomous learning of kanji and vocabulary in advanced Japanese language classes. The main goal was to lead learners to identify their insufficiency in basic knowledge (which varies from learner to learner) and to make self-directed improvement efforts. Therefore, a self-learning workbook *Oboemasyou* (覚えましょう/ Let's Learn!) was designed and introduced to students who were well-informed of its purpose and content. In-class quizzes were utilized for diagnostic self-assessment. This design was found effective in promoting autonomous learning and enhancing motivation. Moreover, it also improved learning outcome as evidenced in students' quiz performance and was highly evaluated by the students.